

参考資料6

やさしい日本語

「やさしい日本語」は、大きな災害が起きたとき、日本に住む外国人が適切な行動をとれるように弘前大学人文学部社会言語学研究室（佐藤和之教授）が発案し、多くの自治体等で活用されている。阪神・淡路大震災をきっかけに研究が始められ、新潟県中越地震（平成16年）、東日本大震災（平成23年）、平成27年の熊本県地震など実際の災害現場でも多言語の一つとして活用されるようになってきている。

「やさしい日本語」は、漢字圏、非漢字圏の出身に関わらず、日本に住んで1年くらいの外国人なら80%以上が理解できる表現になっていて、小学校3、4年生の国語教科書に書かれているくらいの文表現である。

「やさしい日本語」ホームページには、作成マニュアル、災害時の活用事例、用字用語辞典、作成された文を外国人に代わって「どこがわかりにくいか」指摘するソフトウェア「やんしす」、基本的な作り方をインターネット上で楽しく学ぶe-ラーニングなどさまざまな実践ツールが掲載されている。

（参照）「やさしい日本語」ホームページ

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>

（参考）「消防行政への外国人住民のための「やさしい日本語」適用を考える」

佐藤和之,『消防防災の科学』2017年春号,平成29年4月

【「やさしい日本語」の活用例（東日本大震災）「やさしい日本語」ホームページより】

ひなんじょ に
避難所<逃げる ところ>へ い
行って ください。

じしん こま ひと ねが ちか ひなんじょ に
地震で 困っている 人 に お願いします。 近くの 避難所<逃げる
ところ>へ い
行って ください。

ひなんじょ に みず た もの
避難所<逃げる ところ>で 水と 食べ物を もらうことが できます。

もうふ ね
毛布を もらうことが できます。そして、寝ることが できます。トイレが
あります。

かね がいこくじん ひなんじょ に い
お金は ありません。外国人も 避難所<逃げる ところ>へ
行って
ください。

【「やさしい日本語」チェックリスト（掲示物用）】

- 日本語能力試験3・4級程度の簡単な語彙が使われているか
- 1文は1情報になっているか
- 1文は 24 拍程度になっているか
- 不用意に、カタカナ外来語が使われていないか
- 不用意に、ローマ字が使われていないか
- 二重の否定表現が使われていないか
- 災害時によく使われる難しい語には、言い換え表現が補われているか
- 分かち書きは正しくされているか
- 漢字の使用は1文に3・4字程度で、すべての漢字に 振り仮名がふられているか
- 複数の言語で見出しが付いているか
- 見出しは伝えたい情報や動作を指示することばで 書かれているか
- 絵は単純で、一目でわかるようになっているか
- 本文に、具体的な動作やその理由が書かれているか
- 作成年は西暦で書かれているか
- 作成した機関名は書かれているか

【「やさしい日本語」チェックリスト（読み原稿用）】

- 日本語能力試験 3・4 級程度の簡単な語彙が使われているか
- 1 文は 1 情報になっているか
- 1 文は 24 拍程度になっているか
- 不用意に、カタカナ外来語が使われていないか
- 不用意に、擬音語や擬態語が使われていないか
- 災害時によく使われる難しい語には、言い換え表現が 補われているか
- 同音または音の似ている語が使われていないか
- 二重の否定表現が使われていないか
- 文節の切れ目や文と文の間には、ポーズを入れてゆっくりと 読んでいるか
- 一語一語をはっきり発音しているか
- 時間、場所、だれが、何をする、「…してください」、 「…に注意してください」は繰り返し読んで強調しているか

(出典)『〈増補版〉「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』弘前大学人文学部
社会言語学研究室,2013年3月

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ej-gaidorain.pdf>